

# 令和元年 飯田市教育委員会 10月定例会会議録

---

令和元年 10月17日(木) 午後3時00分開会

---

## 【出席委員】

教育長	代田 昭久
教育長職務代理者	北澤 正光
教育委員	伊藤 昇
教育委員	三浦 弥生
教育委員	上河内 陽子

## 【出席職員】

教育次長	今村 和男
地域人育成担当参事	青木 純
学校教育課長	桑原 隆
学校教育専門幹	高坂 徹
生涯学習・スポーツ課長	北澤 俊規
文化財担当課長	馬場 保之
市公民館副館長	秦野 高彦
文化会館長	棚田 昭彦
中央図書館長	瀧本 明子
美術博物館副館長	池戸 通徳
歴史研究所副所長	小椋 貴彦
学校教育課長補佐	滝沢 拓洋

---

#### 日程第1 開 会

○教育長（代田昭久） 改めまして皆さんこんにちは。ただいまより令和元年飯田市教育委員会10月定例会を開会したいと思います。

---

#### 日程第2 会期の決定

○教育長（代田昭久） 日程第2、会期の決定、会期は本日1日とさせていただきます。

---

#### 日程第3 会議録署名委員の指名

○教育長（代田昭久） 日程第3、会議録署名委員の指名、今月の会議録署名委員は、三浦弥生教育委員お願いいたします。

○教育委員（三浦弥生） お願いします。

○教育長（代田昭久） お願いします。

---

#### 日程第4 会議録の承認

○教育長（代田昭久） 日程第4、会議録の承認、9月定例会の会議録ご覧いただいたとおりですがいかがでしょうか、よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） それでは、会議録のほう承認ということでよろしくお願いいたします。

---

#### 日程第5 教育長報告事項

○教育長（代田昭久） 日程第5、教育長報告事項。

それでは、私のほうから報告をさせていただきたいと思います。1枚のレジュメと新聞記事をとめたものがありますのでご用意いただければと思います。

まずは冒頭、今、日本ではラグビーが非常に盛り上がっているなあ、スポーツ好きの私にとっては試合も、またすばらしいプレーあり、非常にうれしい時間を過ごさせていただいていますが、この前の日本とアイルランドの試合で決勝トーナメント進出したときに私が一番感動したのはですね、試合後のリーチ・マイケルキャプテンのコメントなんです。どういうコメントをしたかというと、「自分の勝利よりも今ここで被災に遭っている方々への勇気づけになればよかった試合だと思います」、今後のことも「勇気づけるような試合を次もした

い」というふうにコメントしていただいているですね、「自分たちが勝ちやあいいんだ」というスタンスではなくて、周りとの関係の中で自分たちのチームがあり、その中でチームの存在価値というのをこう認識しているキャプテンなんだなあとあって、いやあ、さすが強者どものリーダーなんだなあとというふうに思い、そのコメントに関心した次第です。

そのリーチ・マイケルキャプテンの言葉を借りるわけではないですが、先週、台風19号の被害に遭われた本当に多くの関係者の皆様、1日も早い復興を願いたいなというふうに思います。

それにつけて思うのは、2ヶ月ほど前、佐賀の武雄市では洪水に遭ったんですが、まだ2ヶ月経ったのですがなかなか復旧しないそうです。まだまだ土日にはボランティアが災害ごみを片付けてもらわなきゃいけないし、教科書やノートが届かない子どもたちがいるという状況をお聞きしています。

そんな中で、長野やその近辺の千曲川沿いの学校もそういうふうになったということだとやはり他人事ではなくて、何か自分たちのできることはしてあげたいと思うし、何らかの貢献活動したいな、そんなふうな気持ちでいます。

また、その一方で、たまたま東側のコースを通りましたけれども、もうちょっと西側のコースを通ったら天竜川が氾濫した危険性も十分にあったわけで、そういった意味で本当に災害と隣り合わせの日本、災害大国ということの中で、子どもたちの安心・安全をどう守るか、改めて認識し直す機会だったかなあとというふうに思っています。

繰り返しになりますが、そんなものを機会と捉えながら1日も早い復興をお祈りしたいと思います。

さて、レジュメに従って、今日、4点お話をさせていただきたいと思います。

まず、1点ですけれども、松尾小学校で本日報道された給食ナプキンに給食のおかずを乗せるという事案が発生いたしました。この指導に関しては、極めて不適切な指導であったというふうに認識をしています。今後このようなことが行われないように指導を徹底していくとともに、このようなことが行われたことに関しては、児童・保護者の皆様に深くお詫びを申し上げたいと思います。

特にそのような指導を受けて悲しんでいる児童がおられたら、それは本当に申し訳なく思い、今後はそういった児童の心のケアをしっかりとしていきたいというふうに思います。

また、学校がこういった事例をもとにして、当該教諭の指導並びに再発防止の体制づくり、さらには学級経営、学級運営に支障がないように対応して行ってほしい、そんなところを校長に指示をしていたところでございます。

今後、まだまだ状況分析をしなければいけないところもありますが、しっかりと状況を把握しながら再発防止のために市教委としても支援をしていきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

2番目、長野県の市町村教育委員会研修総会が先週行われました。本当に10年に1度の大変な事業の中、委員の皆さんにもいろいろご協力をいただきまして無事終了できましたことを改めて感謝申し上げたいなというふうに思います。

いろんな教育長と話をする機会があったんですが、やはり一番話題に挙げていただいたのは上村小学校の歌声でした。「14名の子どもたちなんだね」と、「1名欠席なんだね」というようによく見ているなあという先生方多かったんですが、それでも、やっぱり一人ひとりが本当にのびのび歌っているなあというところを感じ、また、それが決して嫌々ではなくて、それぞれがそれぞれらしく歌っているところが良くて、「ここまでの指導はなかなかできないはずだ」というような言葉をいただいて。

もちろん全体としての成功もあるんですけども、そういった子どもたちの様子を見せていただける機会になったし、また、上村小学校の校長先生、また、先生方とも話をする機会がありましたが、本当、逆に子どもたちも400名の前でということのはとてもうれしかったようで、そういった環境の中で出番があった、出番をつくれたということもよかったし、また「研究授業の非常に良い機会になった」というふうに校長先生も言うておられましたので、そういった意味で言うと、この研修総会とへき地教育研究大会の研究授業、どちらもうまくいったことは大変良かったかなあというふうに思っています。また引き続きご指導いただければと思いますのでよろしく願いいたします。

3点目は、フランスのシャルルヴィル・メジエール都市への訪問に行ってまいりましたので簡単にご報告をさせていただきたいというふうに思います。詳しくは9月28日の「南信州新聞」から10月4日まで7回連載をさせていただきましたので、これをお読みになっていただければと思います。その中でも特にというか共有したいことを3点お話したいなあというふうに思います。

まず1つが、飯田市が国際、海外の都市と友好都市の締結をしているというのはフランスのシャルルヴィル・メジエール都市だけなんです。その価値というのが、私自身も昨年度30周年の中で振り返る機会があったんですが、向こうに行ってみて初めてあの都市の雰囲気を感じて、「あ、これは本当に可能性のある友好都市の結びつきだなあ」というふうに思いました。

というのも、もちろんフランスなので町並みが似ているわけではないし、人の通りも全く、

人の雰囲気も全く違うなあというふうには思いましたが、今、市が市長を含めてですね、こういった文化や教育で都市を盛り上げていこうという大きな方針を立てています。

シャルルヴィル・メジエール都市も実は人口の減少が止まりません。数年前まで6万人いたのが今は4万7千人ということで、非常にまちとして隆盛を誇っている状況ではない、その中で文化を基軸に置いた都市づくりというのを始めているという点。

さらには、ここは風土が似ているなあと思いましたが、川が流れ、自然が豊かで、そして、そこに育まれた詩人がいて、文化人もいて、そういうところは非常に似ているなあと思いましたが、人の温かさ、そういったところはパリの都会ではない、やっぱりそういった雰囲気の中でまちが息づいているという意味でも、これは国境を越えた相互理解を深めるには本当にいい都市と締結しているんだなあ。

逆に言うと、それも1人でも多くの市民の皆さんにも感じてもらいたいと思うし、それがプラスになるような市政経営というのが必要なんだろうなあというふうに思いました。

市政経営というと遠いんですが、市民レベルの交流も、今回、龍江の地区の皆さんが行かれましたけれども、龍江小学校からメッセージを向こうの小学校に伝えたというものがあります。こういった市民レベルの交流が進むことによって、良い意味での本当に国際交流ができる可能性のある都市だなあというものを実感させていただきました。

その上で、イのAVIAMA（人形劇の友・友好都市国際協会）というところで、昨年も飯田市で初めてやって、いろんな都市の人たちがいろんなことを言っているなあくらいの感想だったんですが、実際には、飯田市がリニア時代を見据えて「小さな世界都市」を標榜していくには、この都市のネットワークというのは大きな価値を創造していく可能性があるなあというふうに思っています。

現在、12ヶ国と19の都市ということが加盟をしていて、実際にシャルルヴィル・メジエールで行われたこの会議も多くの都市が参加をしております。ただ、まだ発足後10年経っていないのでいろんな考え方があるし、発足した入会した当時、瞬間の都市も本当に遠慮なくどんどんしゃべるので、今まで積み上げてきたことをひっくり返すような議論もあるし、また大事にしたいって主張する人たちもいますので、議論がなかなか進まなくて、しかも多言語ですので、1つの英語に返すために時間も掛かるし、本当に忍耐力がいるなあというふうには思いましたが。

そんな中で、牧野市長が副会長としてのイニシアチブをとりながら、こういった国際的な連携を図っていくというのは、これも大きな価値があると思うし、それでも、やっぱりまずは教育委員会からこういう状況を知りながら次につなげていく良い機会だなあというふう

に実感しました。

さらに冒頭ちょっと触れましたけれども、フランスの小学校を訪問してきました。事前に小学校のフランスの教育というのをいろいろ聞いてみるとなかなか課題があるようです。

というのは、まず1つは、国が中心になっているので、いわゆる地方分権として教育長がないわけです。地方が責任を持ってカリキュラムを作るとか、何かの教材を用意するという分権組織がなくて、人事権や予算権も国が一律に決めているという状況なので、そういった状況の中ではやっぱり格差が生じてきちゃっていて、これはシャルルヴィル・メジエールの市長がおっしゃっていたんだけど、「小学校卒業時に読み書きができない子どもたちも一定数いるんだ」という状況の中で、「今の教育行政どうしていくか、非常に大きな悩みだ」ということを市長のほうも言っていました。

そんなコメントがあるんですが、いったん教室の中に入るとですね、これはもう洋の東西を問わず子どもたちは生き生きとして授業をしていましたし、龍江小学校のメッセージを、本当に文字はわからないんだけど、それを見て、「あ、心がこもっているなあ」というようなコメントをしていただきました。

また、さらには日本とフランスの文化の共通点というか、「折り紙」という言葉はフランスにおいては共通語になっていて、子どもたちにも折り紙というのは通じるんだと。で、折り紙を通しての交流ということで千羽鶴の鶴も本当に喜んでもらえたなあというふうに思います。

さらには、教室の棚には「JAPON」と書かれた本がいっぱい並んであって、これは本当に先生方が「日本の方々が来るので勉強しなさいよ」と言ったんだろうなあというような取組が見られて、本当こういった大きな課題はありながらも、現場では本当に先生方の一生懸命さというのを感じることもできました。小学校の交流というのは距離もあるのでなかなか遠いんですが、こんなのも少しずつ深めていったらいいなとそんなことを感じました。

以上がシャルルヴィル・メジエールの訪問の報告とさせていただきたいと思います。また折に触れいろいろ聞いていただければと思います。よろしく願いいたします。

最後に、下伊那教育7団体連絡会の陳情報告ということでご報告をさせていただきたいというふうに思います。この下伊那教育七団体というのは、ここに挙げました飯伊の町村教育委員会、教育連絡会でした、済みません、教育委員会の連絡協議会が下伊那の教育会、そして、校長先生方の下伊那小学校校長会、中学校校長会、そして、下伊那の校長教頭の組合、そして、教職員の組合、下伊那支部ということで、多くの関係者が一同に介して、済みません、1つ抜けました、PTA連合会ですね、ここにもPTA連合会抜けていますので補足し

てください。

要は、さまざまな飯田・下伊那の教育に関わる人たちが1つになって県に要望をしていこうということで、長野県各地で陳情は行われているんですが、これだけの7つの団体が、また、しかも4人の県会議員と同席しながら約1時間半にわたる陳情をしているというのはこの飯田・下伊那だけなので、我々としても非常に貴重な機会としての陳情を行ってきました。

今年度は幾つもするのではなくて重点的にということで、4つの項目について要望してまいりました。

1つは、飯田・下伊那における多部制・単位制高校、もしくは分室の設置にあたっては、今後の高校再編を見越しつつ、かつ、地域の事情に応じた場所をお願いしたいと、1点目です。

2点目は、少子化に伴う中学校複式学級による教員数減の問題に対応するため、県独自の制度づくりをお願いしたいというふうなお願いをしてまいりました。

これ事例に挙げたのは、実は天龍中学校であります。南信の天龍中学校で、実は数年すると1つ学年がゼロになると、ゼロになって、いわゆる2年生と3年生が複式、一緒になって1学校1学級という状態になると、中学校の場合は、そうすると教科担任制ですから、1学級しかないのに国語・算数・理科・社会という専門の先生たちを置けないという、国の基準でいくとそういうふうになってしまうわけですが、そういった中で特別な配慮をいただきたいというような簡単に言えばそんなお願いになります。

実は、これは長野県全体でもそうですし、この飯田市でも近しい状況が10年以内に起こりうるという状況ですので、まずはこういった緊急措置的なものを県独自で、県独自の制度をお願いするというのも1つですが、基礎自治体の中で今後どうやって取り組んでいくのかというのは、我々にも突きつけられた課題だなあというふうに認識をしています。

3番目、地域の実情に合った通級指導教室の拡充をお願いしたいという希望です。今、実は、いわゆる学校の中にある特別支援教室ではなくて、ほかの学校に通って支援を受ける通級指導教室というのは、飯田には松尾小学校、伊賀良小学校、旭ヶ中学校にあります。飯田・下伊那に加えると豊丘南、大下条小学校にあるという、5教室で先生方は7名配置していただいているという状況なんです、26年度から設置していただきましたが、今年度で6年目を迎えるんですが、伊賀良小学校なんかはもう40名を超える通級生徒がいる。

ここでは、注釈ですが、伊賀良小学校の子どもたちもいます。でも、1つの教室としては40名を超えるような子どもたちが通っている中で限界を迎えているというところがあって、特に、じゃあ通級指導教室って東京とか都心部だとかなりいっぱいあるんです。かなり

いっぱいあるのは、それは本当に歩いて通って来れるという地域性があるんですけど、飯田市の場合は、やっぱり車で通ってこなきゃいけないというのを考慮すると、この人数と箇所というのは明らかに少ないので、こういったものの増設・拡充をお願いしたいということでお願いをしてまいりました。

県のほうの回答としては、「これかなり拡充の方向でやっています」と、「今、県内では61教室まで増えているので、飯田・下伊那でも拡充する方向で」ということは前向きな回答をいただいているところでございます。

4番目、教職員が子どもに向き合う時間を確保するために業務削減策の立案、実施をお願いしますということのお願いに行っていました。

やはり学校においては子どもに向き合う時間、もっと具体的に言えば、私は授業、子どもたちと向き合う授業の時間を確保するために、これは授業づくりをする教材研究も含むと思います。そういった授業時間を確保するためには、やはり調査物であるとか、また、もう一方で、学校の業務を支援していただけるスクールサポートスタッフというものが入っていますけれども、そういうところを削減しながら、また、スタッフを増やししながら、この先生が子どもに向き合う時間を確保する、そういう施策が始まっていますが、もっともっとお願いしたいということで陳情をしてまいりました。

これに対しても「基本的には増員とか減らす方向ではいる」という回答はいただきましたけれども、まだまだ現場としては工夫の余地があるんじゃないかなというふうに思っていますので、現場の工夫をまた県教委にぶつけながら時間を確保するために相互に努力していきたい、そんなすり合わせをしてまいりました。

いずれにしろこういった陳情をしましたけれども、これ価値があるなあと思ったのが、この陳情前までに何回もこの7団体が集まって「どういう願いをしようか」ということをすり合わせる時間があります。その中で、この下伊那の課題を共有できて、一緒の方向の解決に向かっていくというそういう時間をしっかりと共有できる良いプロセスがあるなあというふうに思いました。

できれば、毎年同じ要望していて、「何かかないませんでした」じゃなくて、今年度から重点項目を絞りましたけれども、「何か今年やったらこれは改善した」と、目に見える成果というのにも必要だというふうに思っていますので、そんなところを意識しながら今年度のまた回答を待ちたいと思いますし、来年度に向けてまた準備を進めていきたい、そんなふうに思います。

済みません、以上、4点になりますが、私からの報告事項とさせていただきます。



何かご質問あればお願いいたします。

よろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○教育長（代田昭久） それでは、また時間があるときによりしくお願いいたします。

---

日程第6 議案審議（5件）

○教育長（代田昭久） 続きまして、日程第6、議案審議、本日の議案審議は2件です。

---

議案第51号 令和元年度飯田市就学援助費支給対象者（要保護及び準要保護児童生徒援助費補助金関係）の認定について」

○教育長（代田昭久） まず、1件目、議案第51「令和元年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について」お願いします。

桑原学校教育課長、お願いします。

○学校教育課長（桑原 隆） それでは、議案第51号「令和元年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について」でございます。

認定対象者につきましては別冊でご用意をさせていただいたとおりでございます。それぞれ記載いたしました認定要件にて認定をいただきますようご提案を申し上げます。

よろしくお願いいたします。

○教育長（代田昭久） はい今、説明がありましたけれども、何かご質問ご意見等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○教育長（代田昭久） それでは、認定ということでよろしくお願いいたします。

---

議案第52号 図書館への防犯カメラ設置について

○教育長（代田昭久） 続きまして、議案第52号「図書館への防犯カメラ設置について」お願いします。

瀧本中央図書館長、お願いします。

○中央図書館長（瀧本明子） お願いします。議案第52号「図書館への防犯カメラ設置について」お願いいたします。

こちらは、中央図書館と上郷図書館において、近年犯罪など危機事案が複数発生していることを背景に、図書館内における犯罪を防止するということを目的としまして防犯カメラを

設置する。そのことにあたりまして、適正な管理と運用を行うための基準を定め、その基準に基づいて防犯カメラの設置及び管理とするものです。

ご審議をよろしくお願いいたします。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ただいま「図書館への防犯カメラ設置について」の説明がありました。

何かご質問、ご意見等ありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） それでは、議案第52号に関しては、承認ということでよろしくお願いいたします。

---

#### 日程第7 協議事項

○教育長（代田昭久） 続きまして、日程第7、協議事項に移りたいと思います。

---

#### 令和元年度上半期の主な成果・課題及び下半期の取り組みについて

○教育長（代田昭久） 本日の協議事項は、令和元年度が2学期終わりましたので、上半期の主な成果・課題及び下半期の取り組みについて、各課、所、館から発表していただき協議をしていただきたいというふうに思います。

桑原学校教育課長、お願いします。

◎学校教育課長（桑原 隆） それでは、まず、学校教育課からお願いしたいと思います。

取り組みについては、横向きの「令和元年度上半期の主な成果・課題及び下半期の取組」といった資料をご覧くださいと思います。

事業につきましては、多々あるわけでございますけれども、学校教育課は大きく4つのポイントに絞らせていただいております。「小中一貫連携教育」それから「コミュニティスクール」、それから「ICT」、それから「空調設備の設置」ということで、大きく4項目について簡単ではございますが記載をさせていただきましたのでご説明申し上げます。

左側が上半期の主な成果及び課題、右側が下半期の取り組みといった形になっております。ただ、左側につきましては主な成果及び課題というより、上期の取り組みといった内容になってしまっており申し訳ございませんが、1の「飯田らしい小中連携・一貫教育について」からご説明いたします。

主には外国語教育の推進を含む学力向上、それから不登校対策ということで大きく2つに

分けて記載をさせていただきました。

まず、外国語教育を含む学力向上でございます。

まずは、外国語教育担当の教育指導主事、本年度から増員ということでございます。それから学校教育専門幹、これで1名増えて3名になったわけでございますが、3名の教育指導主事を中心に、教育支援指導主事、各校区に配置されております14名の先生方でございますが、その先生方で、学びサポートチーム、教育支援チームということで、本年度から新たに組織化をさせていただいております。

学力向上のほうでは、より良い学級づくり、集団づくり、授業づくりという授業改善に向けまして、学びサポートチームによる、これは教育指導主事が中心となった学校訪問支援、それから、研修会の企画・実施等を進めてまいりました。

それから、不登校対策でございますけれども、各校区、中学校区に配置されております教育支援指導主事の教育支援チームといった形になりますが、保護者や関係機関と連携を密にしながら、それぞれお一人お一人の子どもに応じた細やかな指導支援を行っているところでございます。

それから、一番下ですが、今年度新たな取り組みといたしまして、夏体験活動を計画・実施、8月に行っております。

右側、今の部分の下半期の取り組みでございます。学力向上につきましては、学びサポートチーム、教育支援指導主事による学校訪問支援を継続して行っていくということ、それから教育支援指導主事によります研修会、それから小中合同研修会の継続的な支援を行ってきたいということでございます。

わくわくする授業ということで、教育支援指導主事の先生方の積極的な声掛け、訪問と支援を続けながら、例えばICTの活用など先ほどの話ではございませんけれども、もう一歩踏み込む取り組みというのを取り組む必要があるのかなというところでございます。

それから、不登校対策でございますが、引き続き教育支援指導主事によります、それぞれのお子さんの特性に応じた細やかな指導支援というのは継続して行ってまいりたいと思います。

それから、体験活動につきましても計画の検討を行います。

それから、「多様な学びの場の創出体制の検討」って書いてありますが、ちょっと実際にはここまでは行っていないような状況でございまして、進め方から検討を始めたいといった状況でございます。総合教育会議で不登校のことを話題にさせていただいておりますが、「多様な場がそういったところで活用できるんじゃないか」、それから「そういった場が学びの

場としてつながっていくんじゃないか」というようなご意見もございましたので、そういったことにどういったらつながっていくのかという検討の進め方から、まずは内部での検討を始めていきたいというふうに思っているところでございます。

2は、コミュニティスクールでございます。

1つ目のポツは、学校運営協議会の場に年度初め教育長または事務局が分担して、すべての運営協議会のほうに参加をさせていただいております。そのほかにおいては、各学校、学校支援ボランティアなど、地域住民の方々によりまして特色ある取り組みがそれぞれ行われているという状況でございます。

右側でございますが、学校運営協議会は、この中間期、あるいは、これから年度末にかけてまた開催をされますので、これにも教育長または事務局が参加させていただいて、地域、それから学校と一緒に、保護者と一緒に協働活動が充実するような助言といいますか、一緒となって考えていきたいというふうに思っております。

それから、横展開ということで、それぞれの学校の実践事例集を作成し、取り組みの情報共有、それから横展開につなげていければというふうに思っております。

2ページをお願いしたいと思います。ICTを活用した取り組みでございます。

飯田市は3つのモデル中学校区ということで、「小規模校・少人数学級における多様性の育成」、それから「特別支援学級、不登校児童生徒への学力保障」、それから「グローバル化に対応できる思考力、判断力、表現力の育成」ということで、3つのモデルということでそれぞれの中学校区で行っております。それについては継続して行ってまいっております。

それから、環境整備、機器等の整備状況でございますが、今年度はここに記載があります教師用の端末だとか、学習用の端末、それから電子黒板、あるいはデジタル教科書等も徐々に進めているところでございます。

それから、昨年度より配置をいたしました教育支援指導主事のICT教育担当でございますけれども、研修会、それから各学校への授業づくり、授業改善ということで学校訪問等して指導を積極的に実施をさせていただいております。

右側でございます。環境整備につきましては、年度末に今年度計画した端末あるいは電子黒板、デジタル教科書等の機器が導入されるように引き続き事務を進めているところでございます。そのほかには、ICT教育担当教員、教員担当の研修会、それから、教育指導主事の訪問支援を随時ということで行ってまいります。

4つ目は、小中学校への空調設備の設置でございます。小学校の普通教室につきましては、8月までにすべて完了いたしました。それから、小学校の管理諸室、職員室、事務室等につ

いても9月の下旬までに設置が完了しております。それから、小学校については、8月の下旬くらいから9月いっぱい使用状況の調査を行っております。

中学校におきましては、すべて工事発注済みです。右側ですが、使用状況調査につきましては、各学校から提出されてきておりますのでとりまとめて、結果により、検討あるいは必要があれば指導等をしていく予定でございます。

それから中学校におきましては、12月末までには設置を完了するように計画的に工事を進めていきたいというふうに考えております。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

進め方ですが、ちょっとすり合わせをしてなくて大変恐縮なんですけど、8つの表がありますので、1つ1つというよりは2つくらいずつ区切って質疑をとりたいたいというふうに思いますので、もう1つ文化財のほう続けてお願いして。大変失礼しました。生涯学習・スポーツ課の発表の後に質問をとりたいたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

◎生涯学習・スポーツ課長（北澤俊規） それでは、めくっていただいて生涯学習スポーツ課ということです。

生涯学習・スポーツ課については、スポーツ事業においては「やまびこマーチ」とか「風越登山マラソン」、それから、あと体育施設についても課題があるわけなんですけど、特に今年度ということで、3つのものをあげさせていただいて、この状況ということで絞らせていただきましたのでよろしくお願いいたします。

スポーツ文化の醸成（中学生期のスポーツ活動のあり方検討）ということなんですけど、この部活動のあり方の見直しというのを受ける形で中学生期のスポーツ活動のあり方について、3回の関係者会議を開催させていただきました。

特に、スポーツ・学校・公民館・まちづくり関係者等、さまざまな立場で意見交換をさせていただいて、その中で出てきた課題といいますか、中学生期には多様なスポーツの選択肢が必要だということで、必ずしも部活だけではなくて、さまざまなやっていない種目、あるいは競技以外でももうちょっと基礎を学びたいとか、そういった選択肢というのが必要ではないかということですね。受け皿という意味ではなくて、むしろ選択肢が必要だという結論になってきました。

それから、中学生期を単位としたスポーツ環境を地区で、羽場地区であったりとか、あるいは高陵地区であったりとか、川路地区、遠山地区で、それぞれの中学校単位で地区でもそういう環境を整えるという動きが始まっています。

それに対して、取り組みとしては、1月に競技団体、あるいはプロに協力いただいて、全市型競技別スクールの施行実施をやるということで、今、関係団体と相談をしながら学校のほうにご案内をとということをやっております。それから、中学校区を単位とした地域での取り組みに対しても協力してやっていくというようなことで今動いております。

それから、2番目としましては、飯田市の松尾に飯田市総合運動場、陸上2種公認更新工事の実施と今後の活用ということで松尾にあるんですが、こちらのほうサッカーやラグビー芝のグラウンドと、あと周辺陸上競技場が併用して使えるようになっていますが、陸上競技の5年に一度の更新が必要ということで、2種公認ということで、7月10日に工事を着手して、9月30日に工事を竣工するというので、10月の5日にオープニングセレモニーと市民スポーツ祭の実施ということで、親しまれる施設として竣工が終わったということですが、課題としては、作るだけではなくて、市民に親しまれる施設となるための競技環境の向上と、公認2種以上のレベルの競技大会の誘致ということで、下半期につきましては、公認2種継続と来季2種競技大会実施のための準備ということと、飯田市体育協会と連携して、市民が利用しやすい施設として周知し、環境整備し、活用を進めるということを取り組んでいきたいと思っております。

それから、3番目として、飯田型キャリア教育ということで職場体験・ふるさと学習、職場体験学習への支援と結いジュニアリーダー育成講座の実施ということで、今4回を終わったところです。

それから、市内全中学校を対象としたグローバル視点を加えたふるさと学習への補助金交付ということと、これが課題としては、根本的には子どもたちが働くことの意味や地域と自分について考える場や体験が必要ということで取り組んでおりますし、授業のほうも基本的にはその趣旨で実施をする必要があるということで、結いジュニアリーダー育成講座の実施ということと、キャリアフォーラムの開催、昨年、インフルエンザ蔓延で中止になりましたので、今年は実施をしたいということで内容等、詰めていきたいということです。

それから、全中学校で職場体験の実施、それから、グローバルな視点を加えたふるさと学習を実施した全28校に対して補助金の交付。予算的には、「LGこども未来事業」という名前と呼んでいるんですが、ちょっと表現としてわかりづらいので、こういうふうに「グローバルな視点を加えたふるさと学習」という表現にさせていただいて、全28校に対して補助金を交付するというので支援をしたということです。

以上でございます。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

ただいま学校教育課と生涯学習・スポーツ課の上半期を振り返っての成果と課題、下半期の取組ということの発表がありましたけれども、皆さんのほうから何かご質問ご意見等あれば、また感想でも結構ですのでコメントいただければと思いますがいかがでしょうか。

上河内教育委員。

◇教育委員（上河内陽子） まず、2点なんですけれども、1つは不登校対策の点です。「各中学校区へ配置されている」とあるんですが、実際にはその対策としては小学校と中学校で、両方で行われているということによかったでしょうかという質問です。

それから、ICTの部分なんですけど、全中学校の今後1・2年の5教科のデジタル教科書等の導入というふうにありますけど、これは各個人に配られるような教科書のようなものが来るということなのでしょうか。

質問です。

○教育長（代田昭久） 桑原学校教育課長、お願いします。

◎学校教育課長（桑原 隆） 各校区ごとの教育支援指導主事でございますが、担当とすると中学校区ということですので、中学校と小学校を交えた中学校区に配置をされているということになりますけれども、実際に現場として活動をしているのは中学校、小学校、それぞれやっておりますので、それはお見込みのとおりかというふうに思います。

それから、デジタル教科書のご質問でございますが、これは生徒それぞれに配られるものではなくて、各教室に導入を進めている電子黒板で活用ができるデジタル教科書、実際の教科書の補助的に使うものですので、全く教科書というものとは違うということにはなるんでしょうけれども、まあデジタル教科書ということはそういうことで。

よろしいでしょうか。

◇教育委員（上河内陽子） わかりました。

○教育長（代田昭久） 若干だけ補足させていただくと、デジタル教科書って2種類あって、学習者用デジタル教科書というのと、教師用のデジタル教科書というのがあります。教師用というのが、いわゆる黒板がデジタルになると考えていただいていいように、例えば、図形が、先生が一生懸命三角定規で書くよりも、ポンと回すと横から三次元で動いたりとか、今までできなかったことができるのが教師用のデジタル教科書です。

一方の学習者用というのは、端末が1人1台ある状況の中で、あくまでここが今できている自治体の子どもたちがかなり少ないので、これは学習者用デジタル教科書というものの普及はまだまだ一部に限られているというのも、いずれは将来的には多分なっていくだろうなあというふうには思っています。

桑原学校教育課長、お願いします。

◎学校教育課長（桑原 隆） 今のICTの関係なんですけれども、年度ごとの取り組みではなかなか全体の、例えばタブレットは最終的に何台を目指しているんだというような全体も見えないということもございます。

今、予算編成等に合わせて、その全体の組み立て、あるいは年度ごとにこうやっていくという整理をしておりますので、そこら辺がまとまってきたところで、例えば、来月とかの教育委員会の場ではちょっとまたそんな資料をお見せして説明をさせていただく機会をいただければいいかなあと考えていますのでよろしくお願いします。

◇教育委員（上河内陽子） ありがとうございます。

不登校対策はやっぱり小学校・中学校で大切にしてくださっているのが大変ありがたいなあと思っています。学校訪問見に行ったときも、いろんな種類の、いろんな要求のある子どもに対応する教室のある学校というのが、例えば、旭中学校であるとかで大変ありがたいなあというふうに思いました。

その中で、親の会を月に1回やっているということを知りまして、親御さんも実はとても苦しんでいると思いますので、例えばそういう会にほかの学校の親御さんがちょっと参加できるように声掛けしていただくとかというのがあると、親御さんにとってもいいのかなというふうに感じました。

それから、ICTは大変進んできていて、これからを生きる子どもたちに大変ありがたい機会かと思っています。ただ、母親の視点とすると、このごろ中学生とかさすが目が悪くなりやすいのでセットで、目とか健康への配慮というのをセットにして取り込んでいただけることを希望したいと思います。

お願いいたします。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。貴重なご指摘をいただいたかなあというふうに思います。それと今併せて、この定例会のほうでもICTの中期計画というのをまた委員の皆さんにご理解していただきたい、その共有の場を設けたいと思いますのでよろしくお願いします。ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。

三浦教育委員。

◇教育委員（三浦弥生） では、感想をお願いします。

学校教育課のほうの感想から言わせていただきますと、特に本当に効率的でわかりやすい施策といいますか、特に学びサポートチーム、教育支援チームというものの組織立ったもの



を以前図で見させていただきまして、とてもわかりやすい形での組織だということを感じて、そんな中で指導主事の先生を増員されたりということで、本当に組織にして効率的に回している。また、それが仕組みがわかりやすいといったところで、本当に良いものだなというような形で見させていただいておりました。実際ここにもこのように挙がってきております。また継続した取り組みをお願いしたいと思いました。

また、空調の設備に関しましても、本当に対応が早くしていただいたところを本当に感じておまして、課題となったら予算を取って、とにかく対応していただいてどんどん設備も整っていくと、そういうところを見させていただきまして本当にありがたいことだなあと思っております。

生涯学習・スポーツ課のほうでは、特に中学生期のスポーツ活動のあり方というところでは、会議等にも参加させていただく中で、本当に縮小するといった形ではなくて、多様なスポーツの選択肢ということで、わくわくするほうへの変更といったところをとても感じておりましたし、各関係団体や地域と話し合う中で、こちらのほうもスムーズに、長い期間を掛けていらっしゃるかもしれませんが、私としましては早い中で良い形の結論に持っていくということで、とても内容が濃く、また、スピードが早いといったところはとても感じていると、そんなところが今見させていただいたそんな感想です。

ありがとうございました。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

北澤教育長職務代理者、お願いします。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 手短に3点になります。1点は、学校教育課のちょうど真ん中の下半期の取組のところに、「多様な学びの場の創出体制の検討」というのが入っているんですけど、総合会議での出た話題のことも含め、今の飯田市の状況とか、飯田市に限らず長野県の学校の状況というようなことを考えて入れてくださっているのかなと思ひまして、進め方から検討していくっていうような説明もあったんですけど、本当に一歩先を見て検討していただいていることはありがたいことで、ぜひお願いをしたいと思います。

2点目は、2ページの空調設備の設置について、非常に手早い対応をしていただいて、12月末までには設置完了となっています。報告事項で言おうと思っていたのですが、ちょうど今日、上久堅小学校は6年生で社会科の授業だったのです。「今まで設置されなかった空調設備がなぜ急に設置されることになったのか」という学習問題で、要は公民の授業なんですけど、8時間扱いの単元で、1時間目の最初は、「みんなは総理大臣とか国会とかといったらどういうことを想像する」という質問から入ったんです。「何かうんと遠くで偉い人が

やっていること」とかという話から勉強がだんだん進んできて、今日の第7時はそういう学習問題で、身近な、自分たちも使ったあのエアコンがどうして急に設置されるようになったんだろうという中で、愛知県で起こった死亡事故、あの熱中症による子どもが亡くなったということ等をきっかけに、飯田市でも市長さん、市会議員さん、そして住民の皆さん等が、みんな「子どもたちを守るためにはこれが必要だ」という決断をしてくれて、その間に教育委員会が入って、その設置計画から、いかに安く入れられるかというようなことまで、短い時間の中だけ夜も寝ないぐらいで検討してもらってこういうふうに変現しているんだという学習をしていました。政治って遠くにあるものじゃなくて、実はこんなに身近なところでいろんな人が協力し合って1つのことが実現するんだというところに落としていく授業で、教育委員会の施設係の小澤さんも行っ、ゲストティーチャーで、「こういう経過だったんです」という話を子どもたちに説明し、質問にも答え、その後、子どもたちがこういうふうな関係の中でできたんじゃないかというのを学んでいる授業だったんです。

ここで本当に迅速にやっていただいたことが、そのまんま子どもたちにとっても非常にホットな教材になって、今日学びが展開されて、飯田・下伊那の小学校の社会科の先生方がたくさん集まってその授業を見ていました。本当に早い対応をしていただいているというふうに思います。

3点目は、スポーツ課の関係ですけど、特に下半期の取組で、全市型の競技別のスクールを実際1月に試行してみるというところまで具体的に進めていて、多分県内ではかなり画期的な取組だと思います。進めていくのは大変な部分もあるかと思うんですけど、こういうふうに先駆けるにやっていただいていることは本当にありがたいことだと思います。

あえてさらに要望するなら、その1月の間全く部活動休止期間をつくるわけなので、これを行政側から言われて休止期間をつくりまして、その間にスクールやりますというだけで終わらせないで、このやめている間に一人ひとりがいかに前向きに、自分でその休止期間中に、自己課題をいかにクリアするよう使ったかという辺りでの意識づけをうんとしてもらいたい。やりたいのに部活を強制的にやめさせられたという負の受け止めじゃなくて、この休止期間中に逆にあなたが試されているんだよという、前向きな時間になるようにぜひ進めてもらいたいと思います。以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。

◇教育委員（伊藤 昇） 3人の委員に言い尽くされていて。

○教育長（代田昭久） ありがとうございました。

それでは続きまして、文化財担当課お願いします。

馬場文化財担当課長お願いします。

◎文化財担当課長（馬場保之） 当課では、文化財関連施設の管理だとか、それから、地域にある自然・歴史文化資源の資産化、あるいは、国等指定文化財の保存継承と活用、埋蔵文化財の保護・調査等々を担当しておりますけれども、その中で主なものをピックアップさせていただきました。

平成26年に国の史跡に指定されました「史跡恒川官衙遺跡」につきましては、史跡公園の整備ということで公園用地の取得や、取得した用地の発掘調査、そして、先行してですね「恒川清水」の整備ということに取り組んでおります。

特に、やはり用地の取得と、それから発掘調査を着実に進めるということが大きな課題になっております。今後は、「恒川清水」の部分の実施設計等も進めていくということと、それから、調査を着実に進めて、作り物でない史跡公園を作っていくということで、そのための調査をしていきます。

それから2番目ですが、平成28年に史跡になりました「飯田古墳群」につきましては、どういふふうに将来にわたって保存・継承し活用していくかという方針策定のための保存活用計画というのを現在つくっています。

これについては、素案ができてまいりましたので、今後、市民の皆さんの意見を聞いていくということで取り組みをしてまいりますし、それから、保存に関わる団体等と意見交換をしながら進めてまいりたいというふうに考えています。

それから、「名勝天龍峡」につきましては、11月10日にですね、ガイダンス施設というのがプレオープンいたしますけれども、その整備に向けた準備を進めてまいっておりますけれども、この施設を有効に活用して、来訪者に名勝の魅力を伝える、そういった人材育成をどういふふうに進めていくか、その辺りのところを学習会等を軸にしながら進めていきたいというふうに考えています。

文化財指定の関係につきましては、市の有形文化財として菱田春草筆の「富嶽」を今指定しておりますけれども、併せて、これまで市の指定の天然記念物であった「遠山川の埋没林と埋没樹」について上位指定を目指し、資産化をさらに進めるという取り組みをしておりますけれども、そういった指定した文化財について学習会等を開催して、地域の皆さまの認知度を高めるとともに、その活用についての意識づけというのができるいけばというふうに考えています。

国の重要無形民俗文化財である「遠山霜月祭」につきましては、後継者育成のための補助

金交付等を行っているんですけれども、まず、次代を担う子どもたちにその価値を知ってもらうというそういった取り組みを今後進めていくための調整を行っていくとともに、支え手、担い手の支援に引き続き取り組んでまいりたいと思っています。

以上です。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

続きまして、秦野市公民館副館長お願いします。

◎市公民館副館長（秦野高彦） それでは、続きまして飯田市公民館の報告をさせていただきたいと思えます。飯田市公民館につきましては、20地区がさまざまな活動をしておりますので、幾つかに主なものだけを報告をさせていただきたいと思っております。

私ども、この大きく分かれて、1つは「地域ぐるみで子どもを育てる」、もう1つは、「高校生等を対象とした次世代育成」、3つ目に「生涯学び続けられる環境をつくる」、4つ目に、「文化を高め心豊かな市民生活を実現する」というような大きな枠の中で進んでおるわけですが、1番につきましては、まず一番今中心にやっていることは「飯田コミュニティスクールの推進」ということで、学校と地域のつなぎ役として、地域と学校の協働活動を推進をさせていただいているということでございます。

特に私どもは地域とのコーディネート役ということでございますので、この「コミュニティスクール」を円滑に進めるために活動をさせていただいておりますけれども、具体的には座光寺地区では「子どもを語る会」、上村では「地域の子育ての将来を考える会」などを行いまして、地域の皆さんとの当事者意識の醸成というようなことを目指しているわけでございます。

2番目に、「高校生を対象とした次世代育成の推進」ということで、特に今年度後半から実施をしているということでございますけれども、地域人材の育成ということで、地域人教育の展開にあたっての地域人の像の明確化ですとか、あと、発達段階に応じた地域人材のカリキュラムの検討というようなことが課題というふうにとらえておりまして、今後、年度末に向かいます、幼保小中高を通じた地域人材の一貫したカリキュラムの検討や発達段階に応じた重点事項の整理・共有、「地域人」の像の明確化、関係者による連絡・協議の場を進めていくという形を進めていきたいと思っております。

飯田OIDE長姫高校と飯田女子高等学校の進学コースEクラスの探求活動の支援でございますけれども、OIDEの地域人教育につきましては8年目というようなことでありまして、今年は橋北・橋南・東野・座光寺・松尾・竜丘・鼎地区での学びの支援と、毎週金曜日に行われております地域人教育の支援をさせていただいております。

後半につきましては、12月24日に予定をされております地域人教育の成果発表会の支援、来年度に向けて学校と打ち合わせをしていくということになっているかと思っております。飯田女子高等学校の進学コースにつきましては、ここは普通科における地域人材育成のあり方を検討するにあたって非常に重要な部分というふうに考えておまして、年度後半につきましては学校のカリキュラムに基づいた来年度の実施内容の調整とともに、普通科のほうに地域人材の育成というものを組み込んでいけるかというようなことを検討してまいりたいと思っております。

高校生講座で「カンボジアスタディツアー」というのをやっているわけですが、「カンボジアスタディツアー」につきましては、今のような形で説明をさせていただきますけれども、課題としては、男子生徒の応募があまりないというところであります。

昨年1名、今年が2名ということで、学校サイドにも働きかけをしていますが、女子生徒の積極性というところが大きく出ているというところであります。またこれにつきましては学校等とも話をしていきたいなあとと思っております。

多文化共生に関しましては、私どもの特徴としましては日本語の取得ということだけではなくて、生活者としての視点から日本文化を学びながら日本語の取得ができていくというようなものを中心に行っておりまして、後半もそれに基づいて進んでいきたいというふうに思っております。

あと、学級講座の実施ということで地域課題をとらえた各地区公民館の学級講座を実施させていただいているというようなこと、成人式のあり方の検討ということで18歳へ成人年齢引き下げに伴いまして、成人式の開催時期ですとか成人式のあり方を検討させていただいております。

最後になりますけれども、教育関連施設のマネジメントを進めるということで、公民館の改修計画という形で今長寿命化の計画の策定を進めているところでございます。よろしくお願ひします。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

ただいま公民館及び文化財担当の発表がありました。それについて、ご意見、ご質問、感想等ありましたらお願いいたします。

三浦教育委員、お願いします。

◇教育委員（三浦弥生） お願いします。

文化財担当課のほうの部分に関しましては、史跡恒川官衙遺跡、私たち教育委員もそちらのほう見させていただきました。

こちらのほうの成果のほうには載っていませんでしたが、わかりやすいパンフレットですとかリーフレット等も作成されていらっしゃるんじゃないかなというようなことも思います。ああいったものが1つの成果ではないかと思えますし、そういったものもぜひ、本当私もわかりやすく、実は本当に今職場のほうの短大のほうにカラーでコピーしまして学生たちに配ったりというようなことをいたしました。

そんなようなことで、ぜひ地育力の1つとしまして学校現場といいますか、子どもの教育のほうに活かしていただければというところを上半期の取り組みというところにまた入れていただけたらうれしいなとそのように感じました。

飯田市公民館、こちらのほうに関しましては、高校生対象にして次世代育成というところで、地域人の明確化というのを今度課題にというところが本当に大切なところだなと思って、「あ、なるほど」と思って、下半期の取り組みとして見させていただいたときに思いました。やはりどういったものなのかといったところの明確化は大事だなと。

そんな中でも、その上にありますように幼稚園、保育園、小中高としたその一貫したカリキュラムの検討というそういったところも、「あ、楽しみだな」というような形でちょっとわくわくしてといいますか、そんなような形でちょっと見させていただいております。

全く感想です。お願いします。

○教育長（代田昭久） その感想について。

青木地域人育成担当参事お願いします。

◎地域人育成担当参事（青木純） はい、明確化ということについては、やはりどういった地域人というものを目指していくか、しっかりと関係者が把握しております。像は1つではないと思いますので、いろんな活躍の貢献の仕方、地域にありますので、それぞれのパターンといえますか、本当に飯田に残って活躍する地域人もいれば、飯田の外に出て行って飯田の魅力を語っていくような地域人というのもあると考えておりますので、本当にそこは関係者でよく協議をして、どんどんと地域人教育育成を広げていったらと思いますのでどうぞよろしくお願いします。

◇教育委員（三浦弥生） ありがとうございます。よろしく願いいたします。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

伊藤教育委員、お願いします。

◇教育委員（伊藤 昇） 公民館のほうの公民館の改修計画で、長寿命計画の策定、今現段階でわかる範囲でいいんですけど、どんなことを考えているか。

○教育長（代田昭久） 秦野市公民館副館長。

◎市公民館副館長（秦野高彦） 現在、公民館の施設が今どんな状態になっているかという形で専門家に調査をしていただいております。その調査に基づいて、どのような部分を改修することによって施設がより長く使えるようになるかということで計画を立てたいというふうにしております。

◇教育委員（伊藤 昇） 現存してあるものをいかに長く、新しくということではなく。

◎市公民館副館長（秦野高彦） はい、現存してあるものをいかに長くもたせるかという形で進んでいます。

◇教育委員（伊藤 昇） わかりました。

○教育長（代田昭久） 北澤職務代理人、お願いします。

◇教育長職務代理人（北澤正光） 私からは2つです。1つは、文化財担当課のほうの遠山霜月祭の後継者育成というところで補助金をずっと交付されてやってきているということですけど、聞くところによると、今回、保存会のおかげでということもあると思うんですけど、遠山中学校が旧上村中学校も含めて博報賞を受賞することが決まったと聞いています。私の記憶だと、この補助金が出たかどうか別ですけど、上村、遠山保存会の皆さんの中学生等への活は、昭和50年代の前半の辺りからずっと続いてきている活動だというふうに記憶しています。なので、地域の皆さんにとっても今回の受賞はうれしいことだと思いますし、励みになることだと思います。今後ともぜひ支援をして見守っていただけるとありがたい。

もう1点は公民館のことです。公民館主事さんたちがコミュニティスクールのコーディネーターとして各学校に位置づいていただいて、昨日も偶然教頭会のプロジェクトのところで、コミュニティスクールのグループのやりとりを聞かせていただいたんですけど、その中でも主事さんがかなり活躍されていて、例えば学校から「こんなようなことの講師をお願いしたい」というような話のときにも、「ただこういう分野の講師をお願いしたいというんじゃなくて、何人もその分野の講師が思い浮かぶので、このぐらいの年齢のこういうことにさらに造詣の深い人とかというところまで要望を細かく言ってもらえると、それに応えられるような講師を推薦するので」というようなところまで踏み込んだお話がやりとりされたりしていて、コミュニティスクールの推進に公民館主事さんの役割がうんと鮮明になってきた。位置づけが大きくなってきたなあと思いながら聞いていたところです。下半期の取り組みはもとより、今後とも力を発揮していただけるとありがたいと思います。以上です。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

◇教育委員（上河内陽子） はい、三浦教育委員とかぶるといえるか同じような内容になりますが、幼

保小中高を通した地域人育成のカリキュラムというところは大変楽しみだなあというふう  
に思いました。今、やっぱり幼保から小というのがプツツと切れてしまったり、中学校から  
高校がまたプツツと切れていて、高校自体もそれぞれでやっていたりという感じがしますの  
で、そこが飯田らしい地域人教育が進められていくことをすごく多くの人が期待しているん  
じゃないかというふうに思います。

それから、外国人住民を対象としたというところは、やはり今結構増えてきているという  
ことで、飯田市内でも多くの人たちを見かけるようになってきたと思いますので、こちらの  
ほうもしっかり見ていっていただけたらというふうに思っております。

ありがとうございます。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

青木地域人育成担当参事、コメントありますでしょうか。

◎地域人育成担当参事（青木純） 期待に添えるように。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

私のほうからちょっと補足をする、文化財担当の中の3番の「名勝天龍峡」のガイドン  
ス施設のコンテンツの制作をしているのが文化財担当なんですが、実は生涯学習・スポーツ  
課も関連してまして、実は来年度のやまびこマーチの「せっかくウォーク」というもう1  
日追加したウォークの特別なコースがあるんですが、そこに天龍峡の下の添架歩廊を歩くコ  
ースを作って、何とかこの天龍峡の下の本当に絶景であろう景色を見えるコースを何とか飯  
田の名物にしたい。スポーツの観点からそんなことを考えていますので、11月10日がブ  
レオープンで、11月18日が開通かな、そんなスケジュールになりますが、ぜひ委員の皆  
さんも秋紅葉良いときに行っていただいて、「こうするといいんじゃないか」みたいなアイ  
デアもいただけるとうれしいなというふうに思っておりますのでよろしくお願ひします。

それでは続きまして、文化会館、棚田館長お願いします。

◎文化会館長（棚田昭彦） それでは、文化会館の上半期の主な成果・課題と下半期の取組につい  
てご説明申し上げます。

まず、上半期の主な成果・課題のほうをご覧いただきたいと思いますが、芸術・文化の振  
興ということで音楽関係になります。「オーケストラと友に音楽祭」が4月から5月につ  
けての連休に開催されております。音楽鑑賞の機会や学べる機会の提供ということで開催しま  
して、課題として米印で書かさせていただいてありますが、小中高生のクリニック参加者の  
減少、小中学校の音楽鑑賞事業実施校が偏っている。あと、この音楽祭自体の運営が補助金  
に頼らない運営基盤の確保が必要ということで、下半期のほうの取組の欄をご覧いただきま



すが、それぞれの項目について、今後それぞれの対応をとっていくという形で進めているところでございます。

あと、その下でございますが、小中高生の音楽部活のあり方についての検討も進めていきたいと考えています。

また、左の欄をご覧くださいと思います。舞台芸術鑑賞事業でございますが、上半期では主には3つの事業を開催しました。松竹の大歌舞伎とか、あと「にこにこステージ」、乳幼児と保護者の方に鑑賞いただくにこにこステージ、あと地元出身者の演奏者の方の公演の場ということで「コンサートアラカルト」を開催しております。

下半期もそれぞれ3つの項目について引き続き実施しますとともに、下半期の取組のところに「伊那谷芸術文化祭」という記載と、「おいでなんしょ寄席」、あと「萩本晴彦コンサート」を今後予定をしております。

また済みません、左の欄をご覧くださいと思います。

人形劇フェスタにつきましてはご覧のと通りの開催ができましたが、課題としましては、米印4、サポートスタッフや観劇者が減少しているという課題があります。これにつきましては右の欄をご覧くださいますが、下半期の取組としまして、開催日、テーマ、サポートスタッフなどの課題の検討をこれから進めていきたいと思っております。

その下の欄をご覧くださいと思いますが、丸で「人形劇の小さな世界都市」のあり方の検討に向けた取り組みということで、人形劇に取り組みまして41年目になりましたが、50年目を目指して飯田市はどのような取り組みを今後進めていったらよいのかということについて、今後取り組みの方針を検討していきたいと考えております。

それでは、また左の欄をご覧くださいと思います。

左の欄、人形劇公演事業、その下に丸印で「人形劇創造事業」、その下に丸印で「伝統人形芝居振興事業」ですが、もう1つその下に「国際・第8回AVIAMA総会参加」等ございます。それぞれの事業につきまして、上半期にはこれらの事業を開催をさせていただきました。

これにつきまして、引き続き下半期におきましては年間を通じての公演を予定しておりますので、引き続き前半、上半期に引き続きまして、後半のところでも取り組みを実施していくという形で考えていますのでご覧くださいと思います。

なお、一番下になりますが施設管理につきましては、消費税の対応や講習室の照明交換等の対応等を行っております。

主な報告事項は以上になります。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

瀧本中央図書館長、お願いします。

◎中央図書館長（瀧本明子） お願いします。中央図書館からお願いいたします。

図書館では、図書館のサービス計画としまして、1・2・3の3つの柱を立てまして取り組みを行っております。

まず、「利用しやすい図書館」というところでは、今年度の主な取り組みとしましては、各地区にあります分館を身近な図書館として使っていただきたいということで、分館のほうへそれぞれの地区の特徴のある地区の地域資料を配置するということを進めております。

こちらにつきましては、後半、それぞれの地区どんな資料を集めているかということを含めた利用案内を作りまして、配布して利用していただきたいというふうに考えています。

それから、「お仕事キッズタウン」ですとか、公民館が行っています「市民大学講座」など、図書館に来ていただくというだけではなくて、本を持って行ってその場で本を貸し出ししたり、本の紹介をするということを通して図書館を使っていただくという取り組みを行っております。

それから、2番目の「資料提供」というところではありますが、さまざまな要望を持った皆さんが図書館にいらっしゃる中で、課題としましては、今、図書館の書庫がいっぱいになっておりまして、できるだけ要望に添った図書、あるいは資料を早く提供するために図書を有効に使うということで、図書の分担保存を各館で検討を進めております。

それから、資料の劣化も進んでいるものもありますので、デジタル化を進めておりますのと、デジタル化を進めております新聞につきましても徐々に郷土新聞につきましてもデジタルを進めまして、多くの方に閲覧をいただくという取り組みを行っております。

それから、3番目の読書活動「よむとす」の推進というところでは、それぞれの年代に応じた読書活動を推進するという一方で、まずは子どもの読書活動を推進するという一方で、子どもの読書習慣の定着に向けまして、今「はじめまして絵本」で7ヶ月児の親子のご家庭に絵本を1冊プレゼントをするという取り組みを行っておりまして、こちらによりまして7ヶ月、乳児のときにほぼすべての家庭に絵本が行き渡って、お家で絵本を通した触れあいが行われているということになっております。

ただ、課題としまして、それ以降、幼児・小学生になりますとご家庭や図書館への距離等、さまざまな理由によりまして読書機会に差があるということが起こってきております。

そこで、今年度は、まずは幼児、保育園・幼稚園に通っている子どもさんのご家庭での読書の機会、読み聞かせの機会を増やすために図書館から団体貸し出しといたしまして、本を貸

し出しをしまったものをお家まで持ち帰っていただくということをどこの保育園でもしていただくような取り組みを始めるということで前半調査を行いました。

現在のところ、飯田市の私立も含めまして、16の保育園・幼稚園含めまして16の保育所で、図書館で貸し出し物をお家へ持って行っていただく、あるいは分館に借りに来ていただいた物をお家へ持って行って、お家の方と一緒に楽しんでいただくということができております。

後半、保育所と連携しまして、その数をできるだけ増やしていきたいというふうに考えております。

主な取り組みは以上です。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

ただいま2つの館の発表について、何かご意見、ご質問等あればお願いします。

伊藤教育委員、お願いします。

◇教育委員（伊藤 昇） まず、オーケストラのことですけれども、中高生のクリニック参加者の減少、これ私も調べたわけじゃないので、北澤職務代理から、また他の方からお聞きしたことなんですけれども、例えば、中学校の吹奏楽の担当の先生がいるわけです。それで、一流の先生に教えてもらうというのは非常に抵抗感があるということで締め付けがあるんじゃないかという、中学校の先生にとっておもしろくないことがあるんじゃないかということです。そこら辺がちょっとやっぱり、これはスポーツにも言えることですが、部活の顧問、先生と、あるいは今回のような一流のスポーツの方に教えてもらう、そういう話と連動してくるような話になります。

この音楽に関しましても、部活の延長はただ運動部だけじゃなくて、芸術部門全部そうなんですけれども、この辺のやり方というのを音楽をモデルにして、模索して解決の方向に持っていただけたらなあというふうに思います。それが1点。

もう1点、図書館のほうですね、「はじめまして絵本事業」ですね、これは私も5、6年前初めて知ったんですけど本当に良い事業だなあと思う事業で、やはり子どものときに最初のころに出会った本というのは、ずっと私のような年齢になっても残っている場合があるし、またそれが本の読み聞かせによって、ボランティアの読み聞かせもあるし、また、最初のころは特に母親とかお家の方だと思うんですが、その貸し出しが家庭のところまで持って帰る、いろんな策を練っておられるので、ぜひこの「はじめまして絵本事業」というのはエールを送りたいと思いますのでお願いしたいと思います。

以上です。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

今のコメントですが、いかがでありますか。

棚田文化会館館長、お願いします。

◎文化会館長（棚田昭彦） 先ほどお話ありました中高生を吹奏楽部の生徒たちの減少のことなんですけど、「オケ友」の実行委員会の皆様も非常に気にしていまして、確かにオケ友実行委員会の皆様も高校の先生とか吹奏楽の関係の先生がいらっしゃいますので、そういう情報が入っております、今後、もともと「オケ友」自体が音楽を学べる生徒たちを増やしていくという話だったんですが、その土台となる中高生の学べる生徒が減っているということで、対応をとっていかうということで、今「オケ友」の中でもちょっと協議を進めるという形になっておりますので、先ほどお話ありましたようにスポーツの部分もそういう面がありますので、そういう新しい発想で今後どのようにして学びたい子どもたちを育成していくかということ検討には入っていくと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

瀧本中央図書館館長、お願いします。

◎中央図書館長（瀧本明子） ありがとうございます。

「はじめまして絵本」はそうなんですけれども、子どもの読書については、今までですと割合図書館に来ていただくという考えでいたのを、身近な保育園を通じてですとか、学校の図書館を通じて読書をしていただくですとか、子どもにより身近に、子どもに寄り添ったほうに図書館のほうをもっと近づいていくということが必要だと思うので取り組みを行っております。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

ほかにご意見等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

池戸美術博物館副館長、お願いします。

◎美術博物館副館長（池戸通徳） 美術博物館です。お願いします。

主な取組等の紹介ですけれども、本年は開館30周年ということで幾つかありますけれども、その中から3つ、そして、その他ということで4番目掲げさせていただきました。

1点目は、リニューアルオープンでございます。7月20日の日にリニューアルオープンができました、ありがとうございます。特にデジタルコンテンツに力を入れたこと、それから、トピックコーナーという新しいコーナーを設けたことで活気を感じる場面になったかと思っております。また、記念講演会では、7月20日、9月23日と2回行いましたが、

こちらでも好評で100名を超える参加がございました。

館内におきましては、フリーWi-Fiをこのたび全館設置をし、また、柳田館・日夏館にもできました関係上、来客者に大変喜ばれております。

このリニューアルオープンを踏まえまして下半期の取組としましては、より一層情報発信を強化いたしまして、「届く情報」と「来ていただける内容」というふうに進めてまいりたいと考えております。

2点目は、飯田・宇宙教育の推進とプラネタリウムの活用という点でございます。生涯学習・スポーツ課とともに、飯田宇宙教育の推進をしてまいりましたけれども、本年度は特に「飯田天文ネットワーク」を立ち上げるという具体的な目標を持って進めておりましたところ、25名が集まりまして、今、毎月のように定例会を行っておるということでございます。

この皆様方には、星空観望会等にも連絡を取り合っておりますので、出てきていただいておりますし、6月からは地区公民館と協働して観望会など行って、8回ほどできました。

また、開館30周年を記念した講演会につきましては、ちょうどアポロ11号月着陸50周年の年にあたりましたので、月や宇宙開発の話ということで60名ほど来場をいただきました。

9月には自殺予防対策ということで「LIFE」という番組を、これ保健課と協働しまして1年前から計画して実施しました。乳幼児学級といいますが乳飲み子を抱えたお母さんと、まだ言葉のわからない子どもさんが多く集まるのですけれども、変わった雰囲気がプラネタリウムに起こったというか、要するにお母さんたちが「本当に自分がこの子たちを産んでよかった」とか、「育ててよかった」みたいな考えに浸っているというようなことをお聞きしましたし、また、子どもたちもお母さんと一緒にそういう場に出たということがきっかけになりまして、リピーターとして来ていただけるんじゃないかなと考えておまして、良い結果だったなあというふうに思っております。

星に関することにつきましては、今後もイベント等しながら集っていただけるようにしたいと思っておりますし、また、ネットワークを中心に輪を広げていきたいと考えております。

春草につきましては、昨年度よりも1日当たりの来館者数が増えているという状況が見えてまいりました。まだ上半期でございますけれども、この様子で頑張っていきたいと思っておりますし、また、目指す目標としましては、令和3年度に特別展「菱田春草没後110年展」というのをしたいなあと思っておりますので、重要文化財の展示ができるように下準備を進めてまいりたいと考えております。

4番はご覧のとおりです。

以上です。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

小椋歴史研究所副所長、お願いします。

◎歴史研究所副所長（小椋貴彦） それでは資料の一番最後のページになりますが、歴史研究所の上半期の成果、下半期の取組の説明させていただきます。

歴史研究所では、第4期中期計画に基づいて、そこに1～4までございます大きな項目のものを進めておりますが、主なものをご説明させていただきます。

まず、1番の調査研究事業ですが、個人宅史料ですとか、旧役場文書等の調査、地域史研究を進めているところであります。

上半期につきましては、成果として、例えば、川路の菅沼家史料ですとか、そういったものの調査を実施しております。それから、近世史をはじめ、各ゼミを月2回程度開催して研究を深めてまいりました。

下半期の取組といたしましては、旧龍江村役場文書等の調査を進めてまいりたいということと、それから、課題のところがございますが、今、寄贈したいという史料のご相談が非常に多くございまして、保管スペースの確保ということが課題となっておりますので、検討を進めてまいりたいと考えております。

それから、1つ飛ばしまして、3番の研究者育成・地域連携のところがございます。多様な研究人材、団体の確保というところがございますが、上半期につきましては成果として、市民研究員候補という方、現在2名いらっしゃいますが、地域史講座等への参加をしていただいて、歴史への理解を深めていただいたということと、それから、地域団体との連携としましては、座光寺地区の歴史団体との共同調査を継続しているというところがございます。

下半期の取組といたしましては、新たに鼎地区の歴史団体の会議に参加をしております、そういった団体との協力のあり方について今後模索してまいりたいということ、それから、各分野のゼミを続けていく中で、将来の研究人材の候補として育成を図りたいということ、さらに、来年1月には初心者向けの古文書講座を開講して人材育成に努めてまいりたいということでございます。

ここには書いてございませんが、このほか職場体験学習、小学生を受け入れておまして、たまたま先ほどちょっと特別支援の話がありましたので、今いわゆる支援が必要な生徒さんも含めて今3名歴研のほうで受け入れて、女性の年配の調査研究員の仕事を手伝っていただいておりますが、その中では非常に楽しそうに会話をしていたということで、そういう効果も

あるのかなという印象を受けておりました。

ちょっと話が逸れましたが、説明は以上となります。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

本日の発表、最後の2課になりますけれども、何かご質問、ご意見等ありましたらお願いいたします。

伊藤教育委員、お願いします。

◇教育委員（伊藤 昇） 参考ですけれども、美術博物館、美術とか博物館というどうしても現在から過去を見るような方向性になるんですが、やっぱり宇宙教育とか宇宙の話になると未来へ行くような、こういう美術博物館がどういうふうになるのかわかりませんが、非常にそれはすばらしい特徴になるんじゃないかなあとそういうふうに思いました。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

池戸美術博物館副館長のほうから何かありますでしょうか。

◎美術博物館副館長（池戸通徳） 内部的には今年プラネタリウムの担当が正規職員になりまして、ここに力を入れてまいりたいなあと思いますし、先ほど申しました飯田・宇宙教育につきましては、生涯学習・スポーツ課と手を組みながら拡大を考えておりますので、今後もこの調子で行っていきたいと思います。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ほかにはございますでしょうか。

三浦教育委員、お願いします。

◇教育委員（三浦弥生） ありがとうございます。

美術博物館のほうにはリニューアルオープンということでお邪魔させていただきまして、また、職場のほうでも学生と一緒に学芸員さんに1つ1つ丁寧にご説明いただいたりということで、新しくなってとてもわかりやすくなったそういった美術博物館の中で、本当に専門の方からご説明いただけるというところも本当ありがたいなあとということを改めて感じたところです。

そんな中で、取り組みのところにもありますけれども、学芸員さんの採用をというところがあります。とても大切なことだなあとこのように感じております。

歴史研究所の件におきましても研究者の養成、人材育成に取り組むというようなことで、やはり研究していただける、この地域のことをきちんと調べていただいて、それを教育のほうに活かしていただける。そういったことが地育力というところのやはり基盤になってくるんじゃないかなあ、そんなようにも感じます。やはりこういったところにはしっかりと取り

組みいただくべきところなんじゃないかなあというところを美術博物館、また、歴史研究所さんのところにも行かせていただいておりますけれども、そのように感じております。

感想です。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

北澤教育長職務代理者。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 私も歴史研究所のところで、前にいただいた本で「伊那谷の歴史と景観」、本当に興味深く読ませていただきました。ありがたいなあと思いつつ、今日ここに載っている本もそうなんですけど、だんだん歳をとってきまして活字の小さいのが苦しくなってきた、あの本もとても良い本だなあと思いつつ、文字が小さくて読むのにちょっと苦労してしまうという、結局ポイントを上げると入れられる分量が減ってしまうというところとの絡みもあるんだろうなあと思うんですけど、若干ポイントを上げていただくととても読みやすいのではと思っています。でも、いつも貴重な資料を本にまとめていただいて本当にありがたいなと思っています。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

小椋さんいかがですか。

◎歴史研究所副所長（小椋貴彦） 非常にありがたいお言葉をいただきましたので、励みさせていただきたいと思います。年報の活字についてはちょっと持ち帰って、また考えていきたいと思っています。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

ほかにございますでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

上半期の振り返りということと、下半期に向けて取り組みということでご意見をいただきました。

本当に貴重な意見をいただきましたので、これを受け流すことなくしっかりと受け止めてつながるように、教育委員会としてやっていきたいと思っていますので本当にありがとうございました。

---

## 日程第8 陳情審議

○教育長（代田昭久） はい、それでは次に移りたいと思います。日程第8、陳情審議。

今月の陳情審議はございません。



---

日程第9 その他

○教育長（代田昭久） 日程第9 その他。

---

（1）教育委員報告事項

○教育長（代田昭久） 教育委員報告事項のほうに移ります。（1）番、教育委員報告事項。

委員の皆さんのほうから報告があればよろしくお願ひいたします。

それでは、上河内さんお願いします。

◇教育委員（上河内陽子） 本日、教育課程研究協議会山本小学校に行つてまいりました。理科学習ということで、先生方お集まりで4年生の授業を拝見しました。実験をするというところで、そこで最もおもしろかったのは、えみ先生という先生の「えみじろう」というキャラクターをあらかじめセットしておいて、電子黒板の中でいろいろな実験結果が一体どういう考察でまとめたらいいのかなという段階でえみじろう先生が出てきて、子どもたちに「こうだったね」というように話をするということで、子どもたちをすごく引きつけていた様子が印象深かったです。

その中で、先生方グループ討議をされたり、全体討議をされたり、また、県教育委員会の宮下先生のお話を聞いたりとする中で、活発に振り返りをされていて、本当にあの先生方の熱意というものが伝わって大変勉強になりました。

○教育長（代田昭久） はい、自己紹介をしてください。

◇教育委員（上河内陽子） 私の、はい、済みません、自己紹介遅れました。ご紹介いただきました上河内と申します。現在、小学校、中学校、高校に3人の子どもがお世話になっております。10月から教育委員ということで、ちょっと簡単な紹介です。

私は飯田で生まれて、高校卒業後は進学のため東京に出て、大学卒業後は東京の企業で働いておりましたが、結婚して子どもが生まれたときに飯田で子育てがしたいというふうに願って、夫の理解もあって飯田に戻ってきました。

4人のお母さんで野外保育園を立ち上げて、全くの里山で泥遊び、虫取り、木登りなどができる自然保育を6年間行いました。今では信州やまほいく、いいだ型自然保育としてそういう保育に取り組む園がとて増えています。こういった自然環境の豊かなこと、アルプスに囲まれた自然は飯田にしかない大きな魅力だというふうに思っております。

そのほかに飯田市では、やはり先進的な社会教育、公民館活動やそういったさまざま先人たちの勉強熱心な風土とかがすばらしいなど、良さかと思っております。

教育委員を受けるにあたって、私にとっては大変ハードルが高いものでしたので、できるかどうか迷いましたが、教育長にも「保護者としてのそのままの視点でよい」というふうにお言葉をいただいて、引き受けさせていただくことにいたしました。

皆様にいろいろ教えていただきながら精一杯務めさせていただきたいと思いますのでよろしく願いいたします。

(拍手)

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

最初に振ったのはそういうことで、ごめんなさい。感想からスタートになってしまいました。本当にありがとうございました。こちらこそよろしく願いいたします。

それでは、ほかの委員の皆さんからお願いいたします。

三浦教育委員、お願いします。

◇教育委員（三浦弥生） 私も、それでは引き続いて教育課程研究協議会のほうに出席してまいりましたので、その感想を述べさせていただきます。

私は小学校の音楽ということで追手町小学校のほうに行かせていただいております。ここでの音楽は、音楽にはいろいろ授業があるそうですが、器楽ということで楽器を使う授業ということで授業としては難しい授業の研究ということになるんだそうですが器楽ということでした。3年生ということで、3年生というとグループ活動も難しいという中で、楽器を使ったグループ活動を用いた授業のそういった内容でした。

まず最初に私の感想としましては、この計画指導案なんですけれども、学校が目指す子どもの姿というところから引っ張ってきておりまして、その中で、その具現化というところで自分の考えが整理できる、表現できる、伝え合える、一緒に考え合える、学び合えるといった、その学校が目指す子どもの姿を具現化して何をするかといったそのポイントに合わせて授業が組まれているといったところにすごいなという感想を1つ持っております。

そんな中で、子どもが考えるといったところに楽器を使ってです。考えるといったところにやはり仕掛けがしっかりありまして、そこが事業の展開、事業教材を作るおもしろさだなということを考えましたけれども、音楽を奏でる楽器によって曲の伝わる表情が違うといったところがテーマになっておりました。

ピアノで同じ曲を聞く、いろいろな楽器を加えることでいろいろ表現が異なると、楽器を変えてみよという、変えてもいいよという形で、まず表現したい内容を言葉に書くということもこちらの学校では1つテーマに、表現を言葉にするということも据えておりまして、表現することをまず書いて言葉でテーマを示してある。それに関して、それに当てはまる楽

器を変えながら音楽を重ね合わせていくとそういったところの授業でした。

そこには友達と話し合ったり、また考えるというシンキングタイム、相談タイムというものも設けられておりまして、その中でそれぞれのグループが自分たちの表現するというその言葉、砂の上を2人で歩くどうのこうのとかいうそんなようなイメージに合わせた楽器を使って音楽を表現するといったところを見させていただいております。

そんな中で、とても精度の高いそういった授業の研究を、音楽の先生たちパワーがあつて明るいということも感じました。けれども、そんな先生方が真剣に意見を出されている。また、南信教育事務所の西沢真一先生のまたその解説指導がとてもわかりやすく、とても私自身音楽の教員ではありませんでしたが、子どもに向かう姿勢、授業の姿勢というものを感じ取れるようなそんな研究協議会だったのではないかと思います。

もう1点感じたところが、自覚障の子どもさんが2人入っておりました。担任の先生もついておりましたけれども、その子どもさんも担任の先生がときどき言葉足らずのところは代弁をしてくれておりましたけれども、上手にそのグループ活動はしておりました。指導の南信教育事務所の先生も好評のところでおられましたけれども、こういったいろいろな個性を持つ児童が共に学べる場所を授業のこういった作り方で場所をつくることができると、そういったところも見させていただいております。

とても良いところがたくさん、言い尽くせないほど私自身が先生たちと学ぶ場所として学んでまいりました。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

ほかにありますか。

伊藤教育委員、お願いします。

◇教育委員（伊藤 昇） 今、学校訪問やっていて、まだ半ばなので、終わったときに学校訪問のことについて触れさせていただきますが、今日、そのときにちょっと知ったことで、竜峡中学で学校登山をやめたという、先生が大胆にもおっしゃった。

これも実はさっきのオケ友のクリニックの話にもつながっていくんですが、スポーツ、部活の延長のようにうまく結びつけるといいのかなと思いました。当然、学校登山には危険な部分もあるし、いろいろな部分があるんですが、やはり山へ登るといのは、頂から見ると充足感ですね、あれはぜひ味合わせてやりたいという先生方も、保護者も、また生徒自身もおると思うんですけど、そういう方たちは例えば飯田山岳会というところに教えてもらって初心者から入っていく。

事実、飯田山岳会は若い人が入ってこない、今クライミング講座なんかをして、若者に呼びかけているんですね。それから、これは新聞記事に出たんですけど、松川中学では松川山岳会ですか、松川の中学生をこの夏に2人連れて行った。それまでに5人ぐらいやっぱり高い山ですから訓練をしていたんですけど、結果的には夏休みに2人連れて行ったというそういう松川の事例もあるので、やはりその学校登山を見直すときにそういう受け皿的なものがあるということです。

まあ鼎はやっておられるそうですけれども、ほかにちょっと私も調べてありませんけれども、この竜峡中学というのは以前に川路の小学校でも障害者がいて、ボランティアの助けを得て、大変ご苦労なさって登山をしたという話を聞いていますので、その辺のところは伏線になっているのかなあと考えております。部活の延長の話がいろんなところにつながるのではないかと思います。

以上、感想ですが。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

ほかにありますでしょうか。

北澤教育長職務代理者、お願いします。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 教育課程研究協議会のことは先ほど申しあげましたので、2点です。1点は、この間、長野県の市町村教委連絡協議会の研修会飯田大会について、本当に教育委員会の事務局の皆さんが心を砕いて会場準備から片付けまでしていただいて、参加された全県の何人もの方からの声で、コンパクトな会場で無駄な動きをせずに参加できて、休憩時間にもゆとりがあってよかったということと、さっき教育長のほうからもありましたけど、上村小と結んでのテレビ中継もやっぱり子どもたちの力ってすごいねえというような声をいただきました。せっかく飯田まで来るんだからというので前泊で見えて、美博の春草の展示を見てきたという方たちもいました。夜の街に行かせてもらって、「飯田のお酒をしっかりといただきました」と言ってくれた人もいました。どっちにしても事務局の皆さんにお世話になって、良い大会つくっていただいてありがとうございます。

あと、ほかに発言する場所がないと思うので、報告事項の場所で質問していると変なんですけど、学校現場の皆さんから言われていることで、給食費の徴収の公会計化というようなことについて、国からも指針が今年のはじめに出ていて、周辺市町村でもだんだん検討されて、例えば阿南町では、令和2年度を目途に公会計化を進めていくというような計画が出ているというようなことを聞いています。準備等が大変だと思うんですが、飯田市では検討されていることがあるのかということをお聞きできればと思います。

○教育長（代田昭久） 学校教育課桑原課長、お願いします。

◎学校教育課長（桑原 隆） 公会計化につきまして、国のほうから指針が出ているということ、それから、県内でも徐々に検討が始まっている、あるいは始まっている市もあるということ、は承知をしております。

飯田市については、その調理場の数が自校も含めてちょっと多いというような事情もあつてということばかりでもないのかもしれませんが、今のところはまだ検討は始まってないということですが、当然これから検討していく必要がある事項というふうには考えておるところでございます。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

---

## （２）教育次長報告事項

○教育長（代田昭久） それでは、（２）番「教育次長及び地域人育成担当参事報告事項」お願いします。

◎教育次長（今村和男） ありません。

◎地域人育成担当参事（青木純） 報告事項というほどではありませんが、見させていただいて、改めて頑張っていこうという気持ちに、国にいと、ともすれば現場と離れて何のために働いているのかということがわかりにくいところがありますけれども、やはり具体的にこのために働くという強いモチベーションが湧いてくる場所ですので、また頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくをお願いします。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

---

## （３）学校教育課報告事項

○教育長（代田昭久） （３）番「学校教育課報告事項」お願いします。

◎学校教育課長（桑原 隆） ございません。

---

## （４）生涯学習・スポーツ課関係報告事項

○教育長（代田昭久） 「生涯学習・スポーツ課関係報告事項」お願いします。

北澤生涯学習・スポーツ課長、お願いします。

◎生涯学習・スポーツ課長（北澤俊規） 皆様のお手元に「わが家の結いタイムポスターコンクール」教育委員さんだけお配りしていますが、これをお読みいただいて、本日、教育委員会定例会終了後、Aの305で教育委員さんの投票をお願いしたいと思います。内容については

時間がありませんのでお読みいただいでよろしくお願ひしたいと思ひます。

以上でございます。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

---

#### （5）公民館関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続きまして、「公民館関係報告事項」お願ひします。

秦野市公民館副館長、お願ひします。

◎飯田市公民館副館長（秦野高彦） 済みません、資料ございませんけれども報告をさせていただきますと思ひます。

12日の台風の関係で、地区の運動会11地区13日に予定しておりましたけれども、11地区すべて中止という形で対応させていただいております。晴れましたけれども、前日の準備ができないというようなこともありますし、あと、公民館が避難施設にあっていたということもございまして、11地区行う予定でしたがすべての地区で中止という形になっております。

ご報告としてよろしくお願ひします。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

---

#### （6）文化会館関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続きまして、「文化会館関係報告事項」お願ひします。

柵田文化会館館長、お願ひします。

◎文化会館長（柵田昭彦） お手元の資料の「人形劇のまちづくり」の推進に関する取り組みについて、ちょっとご報告であります。

1番の「人形劇公演事業」で、(2)番のところ定期公演がございまして、そちらのほうへ竜東中学校の人形劇部きららのほうで上演をしていただきました。

あと、(3)の今後の予定ですけれども、定期公演が10月の14日に開催されております。それと、「せかいの劇場」ということで10月23日から27日、人形劇場でスペインの「ジョウディ・ベルトラン・カンパニー」という世界の人形劇が上演をいたしますのでご覧いただけたらと思っております。

2番の「人形劇創造支援事業」の(3)の下の方にゴシックで書いてあるところですが、「伊那谷タイムトラベラーズ」ということで現在、小学生・中学生が参加して活動をされております。

2 ページをご覧くださいと思います。

3 の「いいだ人形劇フェスタ」の関係でございます。

(3) で、今後の予定の欄に入ってしまったておりますが、もう実施終了した事業でございますが、2 つ目の欄で、雲林の国際人形劇フェスティバルに飯田女子高等学校の人形劇クラブの皆さん、生徒が 10 名、10 日から 14 日、台湾のほうで今田人形の上演をしていただいております。

あと、4・5・6 番についてはご覧のとおりですのでご覧くださいと思います。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

---

#### (7) 図書館関係報告事業

○教育長（代田昭久） 続きまして、「図書館関係報告事項」お願いします。

瀧本中央図書館長、お願いします。

◎中央図書館長（瀧本明子） お願いします。図書館から「よむとす事業の報告及び予定」ということで資料ご覧くださいと思います。

2 の予定のほうであります、11 月 2 日の日に「特別還元図書市」と書いてありますけれども、今年は主に郷土資料ですとか全集物なんですけれども、図書館の中にもう複数冊ある図書につきまして、市民の皆さんに使っていただくという還元図書市を行う予定です。

それから、図書館では地域の出来事に合わせて 1 階の展示コーナーで図書や資料の展示を行っておりますが、現在、新聞記事も載せさせていただきましたが、三遠南信関係の資料を 30 日の三遠南信サミットに合わせて行っています。それから、来月は天龍峡大橋の開通が近づいておりますので、天龍峡についての資料を展示いたします。

それから、先ほどカラーのチラシをお配りいたしました、こちら天龍峡に関連しまして、文章講座という文章を書く講座を図書館では毎月行っておりますけれども、こちらの公開講座で今回も鎌倉貞雄先生によります天龍峡記と天龍峡十勝という講座がありますので、この機会にぜひご参加いただければと思います。ご案内します。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

---

#### (8) 美術博物館関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続きまして、「美術博物館関係報告事項」お願いします。

◎美術博物館副館長（池戸通徳） お手元のチラシ4つについてご案内です。

「びはくにゅーす」がグレーで10月号、グリーンで11月号ございますので、またお目通しください。それから、「プラネタリウム天歩」10月の特別投影「たっぷりプラネタリウム」、それから、後ろには「ぐっすりプラネタリウム」ということで、いろんなプラネタリウムがございます。これは白い紙でございますのでまたご確認いただきたいです。

最後、ちょっと注意事項になりますが、「南アルプスジオパーク10周年・エコパーク5周年記念」ということで、「南アルプス自然環境保全活用連携協議会」、これ長野県・静岡県・山梨県の3県と、その3県にまたがる10市町村、飯田市も入っておりますが、ここで事務局を持っておりますので、ここが組んでいる協議会でございますが、飯田市としましては環境課、観光課、そして美術博物館がその事務局になります。

その関係で、「みんなで南アルプスを楽しむ」ということで、11月30日に記念シンポジウムが行われるというお知らせがまいりました。注意事項というのは、参加の申し込みがいるということです。もう受付が始まっているということです。もしご希望のある方は申し込みいただきたいと思います。

以上であります。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

---

#### （9）歴史研究所関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続きまして、「歴史研究所関係報告事項」をお願いします。

小椋歴史研究所副所長、お願いします。

◎歴史研究所副所長（小椋貴彦） 歴史研究所でございます。

報告事項でございますが、1つだけさせていただいて、あとは資料をご覧いただきたいと思っております。

飯田アカデミア第88講座について、10月5日に開催いたしました。細かいところはまた資料をご覧いただきたいと思っておりますが、講師のお話の中で特に印象に残ったところだけちょっとお話をさせていただきたいと思っております。

古代のヨーロッパの建築の関係で、南フランスのアルルの円形闘技場のことが話題になりまして、その円形闘技場は、中世にはまちを守る要塞の一部として改築されてきたこと、さらに時代が進んで、その円形闘技場がついには集合住宅になってしまうということで、20世紀においては再開発か文化財の保護かという大きな2つの対立の中で進んできたわけですが、「3つ目の態度として建物の再利用を改めて見直すべきじゃないか」というようなお



話がありました。

もう1点、今年の4月に火災で尖塔を消失しましたパリのノートルダム大聖堂についてですが、今修復のお話が出ているところです。

もともと大聖堂は12世紀初期、ゴシック様式で建築されておりますが、以前も火災で焼失しておりまして、19世紀には修復を行った結果、ある建築家が以前と全く異なるルネサンス風に修復してしまったということで、この1世紀その姿で立っていたのでパリの市民が非常に愛着ありましたけれども、かなりデザインを変更したことについて後世になって批判を浴びたということ、それから、今回もパリのオリンピックを見越してフランスの大統領が早急な修復を宣言しているということで、聞くところによると現代的なデザインの検討も提案されていることを受けて、

「しっかりとした議論をした上で建物の修復を行うべきではないか」というようなお話がありましたので、参考にさせていただければと思います。以上であります。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ただいま教育次長及び参事の報告事項から歴史研究所までの報告がありましたが、これについて何かご質問等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） ありがとうございました。

---

（10）今後の日程について

○教育長（代田昭久） 続きまして、（10）番、今後の日程についてお願いします。

滝沢学校教育課長補佐、お願いします。

◎学校教育課長補佐（滝沢拓洋） それでは、会議資料3ページをご覧くださいと思います。

10番の今後の日程につきましてですが、11月15日まで引き続いて学校訪問を記載のとおりお願いしたいと思います。また、11月14日に定例会を予定しておりますが、会場は美術博物館を予定しておりまして、学習会を兼ねまして行いたいと思いますのでよろしくお願ひしたいと思います。またご通知申し上げますのでよろしくお願ひします。

以上です。

○教育長（代田昭久） ありがとうございました。

学校訪問が続く10月は大変忙しい時期になりますが、なにとぞよろしくお願ひいたします。

本日の日程、終了しますが、ここまでのところを通じて何かその他でご質問、ご意見等あ

りますでしょうか。ご発言ある方はお願いします。

(発言する者なし)

○教育長（代田昭久） よろしいでしょうか。

---

日程第10 閉 会

○教育長（代田昭久） それでは日程10。

以上をもちまして、令和元年10月定例会議を閉じさせていただきます。

本日もどうもありがとうございました。

---

閉 会 午後4時3分